地球の冷やし方

五年　伊藤　陽人

ぼくが今回、選んだ本は「地球の冷やし方」です。この本は電気やプラスチックを少しも使わなくても幸せになれるアイディアがたくさんのっています。ぼくは、その本を父にすすめられて読みました。そのとき「地球の冷やし方」という文字が目にとびこんできたので、てっきりガソリン車はやめて電気自動車にしよう、や再生可能エネルギーがでるか、などその程度のことぐらいしか書いていないと思っていました。なぜならいままで見てきた本では、そもそもアイディアが少なく、ありきたりな内容が多かったからです。

しかし、この本はとても根本的な考え方がのっていて例えば電力消費量を減らしてもきせつ度が上がるライフスタイルやプラスチックが問題だから自然素材を使ったり空気をよくしたりすることなどがあります。ぼくは、その

ような考えなかこれからの問題に立ち向かうとき同じことをくり返しにくいと思うからです。事だと思います。そして筆者の主張はまさにここに強く表れているのだと思います。この本のアイディアにはすぐに日常生活に使えそうなものもあり、成果が残り幸せ度が上がることを追求してきたと書いてあったのでそこには感心しました。簡単なのは圧力なべで白米をたくこと。ばかしいのでは放射冷却の原理をうまく使った、非電化冷蔵庫などと、な

んい焼き涅槃ごこともできるし、楽しくできることが、なによりとてもいいです。

最近では、生分解性プラスチックの開発が進んでいます。プラスチックを使い続ける生活が前提になってしまっているからです。これらは本に書いてあったとおり心のわく組み、つまりマインドセットが変わっていかないといえます。今、日本は石油不足になっています。世間の人々はホルムズ海きょうが戦争でふうさされていることを分かっていません。ですが、この本

を読むと考えが変わりました。そもそも石油をあまり使わなければよかったんだと。同じマインドセットだと、かんきょうにもそれ以外でも悪えいきょうを及ぼします。

ぼくの家の屋根には太陽光パネルがあります。そして太陽光パネルは、かんきょうにいいと言われています。なぜなら二酸化炭素を出さないからです。しかし、それは表面的な解決策でしかありません。ですがぼくは表面的なことしか考えられませんでした。けれど

二の本を読んで根本的な解決策がどういうものかよくわかりました。これからアンペアがウンをしたりそのような簡単なことにちょう戦したり井戸をほるという大きなテーマをつくるのもいいと思います。これから未来になると現状が悪化してしまうかもしれません。だからこれに立ち向かうときは、いつも根本的な解決策を忘れないでいたいです。なにより他の人にその解決策を充分に知ってもらいたいです。それが人類のめつぼうを防ぐ近道

だと思います。そして楽しく生きることが当たり前になれるとも思います。